

ットを早期に発揮できるように、体制の具体的整備、機材設備の充実化などの抜本的な検討を引き続き行い、改革の萌芽を実現していく必要がある。

Ⅷ 社会貢献

【大学・学部の社会貢献】

1 社会への貢献

(1) 公開講座の開設状況とこれへの市民の参加の状況

現状の説明

公開講座の実施状況は、大学基礎データ「Ⅱ 教育研究の内容・方法と条件整備」
「6 公開講座の開設状況」のとおりである。

点検・評価 長所と問題点

本学の公開講座は、地元の千葉市、四街道市の協賛を得て進められているが、受講者にばらつきが出ることも多かった。大学でしかできない特色のある講座、市民生活に直結する内容の講座を開催するなどの工夫が必要である。

担当者の負担については、時間的な問題のみではなく、費用的な面でも問題がある。すなわち、費用の大部分が広報活動などの管理費的な部分に使用され、講座内容の充実のためにはあまり利用されていない。

将来の改善・改革に向けた方策

公開講座の開催についての難しさは、公開講座の企画、準備と講師の調整である。講師を受け持つ教員にはかなりの負担をかけることになるので、実施方法についての工夫も求められている。今後は、映像・情報技術を駆使するなどの方法を取り多様な興味ある講座にして行くよう、その方法についても検討する必要がある。さらに、公開講座について、単位認定を行えるように授業の一部に組み入れることも視野にいれて、検討することも必要であろう。

(2) 教育研究上の成果の市民への還元状況

現状の説明

教育研究の成果は公開講座、外部講演会への講師派遣、出版物などを通して市民に還元される。本学の公開講座や本学教員の外部での市民向け講演等は、かなりの成果を上げてはいるが、全体として、自分の研究を社会に還元するという意識はまだ薄く、その自覚を持つ教員が必ずしも多くないというのが現状である。研究成果の発表・出版に関して言えば、本学には独自の出版局はないが、紀要の発行は行っ

ている。しかし、多くは各教員の力量による個々の出版あるいは投稿に任せられている。

点検・評価 **長所と問題点**

本学としても公開講座などで、一定の役割を果たしていることは評価してよい。しかし、一般に言う教育研究成果の市民への還元は、本学においては、まだ積極的に点検・評価する段階には至っているとは言えない。

【大学院の社会貢献】

1 特許・技術移転

(1) 特許の取得状況

現状の説明

特許の取得状況は、大学基礎データ「V 研究活動と研究体制の整備」「3 特許申請・承認状況」のとおりである。

点検・評価 **長所と問題点** **将来の改善・改革に向けた方策**

特許の取得状況は、低迷しており、今後の知的財産権利化への取り組みを強化する予定である。

(2) 特許取得を「研究業績」として認定する学内的措置の適切性

現状の説明

特許は、研究業績として評価している。

点検・評価 **長所と問題点** **将来の改善・改革に向けた方策**

特許は、研究業績としてまだ十分認知されておらず、今後の促進策を検討する必要がある。

IX 学生生活への配慮

【大学・学部の学生生活への配慮】

1 学生への経済的支援

(1) 奨学金その他学生への経済的支援を図るための措置の有効性、適切性

現状の説明

現在のところ、学生が利用（申込み）できる奨学金制度は、学内の奨学金と学外の奨学金との二種類がある。学内の奨学金制度には、以下のものがある。